

# 北東アジアにおける日中韓の戦略的相互信頼<sup>1</sup>

中山大學アジア太平洋研究院教授、韓国研究所所長 魏志江

リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムなどの国際関係理論における「信頼」に関する理論<sup>2</sup>によれば、「戦略的相互信頼」とは、行為主体である国家による相手の戦略的意図、戦略的能力、重要な行動に対する国益に有利な判断であり、相互関係に対する積極的な期待であり、伝統的・非伝統的な安全保障利益を追求する行動の不確定性とリスクを減らす認識である<sup>3</sup>。そして、「戦略的相互信頼の度合い」とは、「戦略的相互信頼」の程度である。日本、中国、韓国（以下、日中韓）は、北東アジアの重要な国家として、ある程度の戦略的相互信頼関係を形成しているものの、歴史問題、海洋権益、領土紛争、アメリカとの関係、政治制度・価値観の差異などの影響で、相互信頼関係は依然として脆弱なものである。

本稿では、日中韓の戦略的相互信頼の度合いのモデルを用いて、日中韓の戦略的相互信頼関係に影響を及ぼす主因を分析する。その上で、安定した日中韓の戦略的相互信頼関係を構築することが、北東アジア安全保障メカニズムの核心部分およびその基盤であることを指摘したい。

## 1. 戦略的相互信頼の理論

グローバル化時代において、国際関係と国際的相互信頼には密接な関連性がある。戦略的相互信頼の内容を明確し、相互信頼と国際協力の関係を把握することは、日中韓の戦略的相互信頼と安全保障協力にとって重要である。さらに、北東アジアの安全保障にも大きな影響を及ぼす。

戦略的相互信頼の特徴として、次の5点が挙げられる。第一に、戦略的相互信頼は特定の領域に限定されるものではなく、政治、軍事、経済、文化、科学技術などが含まれる。第二に、戦略的相互信頼は安定的なものである。行為主体同士に突発の事件（または衝突、リスク）などによって容易に崩されるものではない。第三に、戦略的相互信頼は長期性を持つ。すなわち、長期的な発展を重視し、短期的な目標（または暫定的な利益）に影響されるものではなく、国家関係の悪化によって消されるものではない。第四に、戦略的相互信頼は国家の総合的实力から生まれ、維持

されている。第五に、戦略的相互信頼は「具体性」という要素がある。個人、行政、首脳同士の友好関係によって積み上げられている<sup>4</sup>。

戦略的相互信頼と安全保障協力は、互いに影響し合い、相補的に存在する。まず、前者と後者には正の相関関係がある。戦略的相互信頼の度合いが高ければ高いほど、安全保障協力は有利にはたらく。逆にそれが低くなれば、安全保障協力は不利になる。相手の長期的な戦略意図を理解することによって、戦略的相互信頼が構築されることになる。さらに、相手の意図を認識し、共同利益を見つけることも可能である。たとえ片方が今までの対応と異なる行動を取ったとしても、行為主体同士が信頼をもって国益に有利な判断を行い、衝突を回避することができる。そうすることで単独行動が無力化され、つまり、協力が単独行動よりも有利になる。行為主体同士にとって協力の意図が生じやすくなり、初期的な政治協力が実現でき、さらにハイレベルの政治協力を展開させる可能性も生じてくる。逆に、相手の長期戦略意図が不確実な場合、政策の方向性を把握することが不可能となり、相手の行動から疑い（または恐怖）が芽生える。その際、自分を守るために最悪の状況を想定する。つまり、相手は自分に不利をもたらすと判断し、相手を敵とみなす。

また、安全保障協力は戦略的相互信頼に影響を及ぼす。相互信頼が欠ける場合、一時的な施策でも一部の分野で協力が実現できれば、相互理解を深めることができる。そして、長期的な交流と相互依存の深化によって、相互信頼関係を高めることができる。信頼関係と協力関係の相互深化によって、最終的には戦略的相互信頼関係が形成される。逆に、協力の過程で生じる摩擦がうまく処理できなければ、信頼関係が損なわれるおそれがある。

## 2. 日中韓の戦略的立場とその特徴

日中韓の戦略的相互信頼と北東アジア安全保障協力への影響を理解するためには、まず、日中韓の戦略的位置づけおよびその特徴を分析する必要がある。一般的に、中国が

<sup>1</sup> 本稿は、2009年度日本国際交流基金会の助成による研究成果の一部である。

<sup>2</sup> Andrew H. Kydd (2005), *Trust and Mistrust in International Relations*, Princeton University Press, p.6.

<sup>3</sup> Paul R. Brewer, Kimberly Gross, Sean Aday and Lar Willnat (2004), International Trust and Public Opinion about World Affairs, *American Journal of Political Science*, 48(1), pp.96-97.

<sup>4</sup> 劉慶「『戦略互信』概念辨析」『国際論壇』2008年第1期、42ページ。

外国と結ぶパートナー関係のなかで、「戦略的パートナー関係」は最高レベルである<sup>5</sup>。日中韓における二国間または三国間の関係には、すでに戦略的パートナー関係が結ばれている。

2008年5月、韓国の李明博大統領が訪中して胡錦濤中国国家主席と会談を行い、中韓首脳による共同声明が発表され、中韓関係をこれまでの「全面的協力パートナー関係」から「戦略的協力パートナー関係」に格上げすることに合意した<sup>6</sup>。さらに、中韓の外務次官級の戦略対話と両国首脳の定期相互訪問が制度化された。この他、日中韓FTA交渉の早期開始、朝鮮半島および北東アジアの平和と安定のための協力深化、貿易・投資拡大などで合意した。そして、2008年8月に胡錦濤主席が訪韓し、中韓戦略的協力パートナー関係の具体的な協力内容が充実され、新たなステップへと踏み出した。

中韓の戦略的協力パートナー関係は、1992年国交樹立以降の「友好協力関係」から、金大中政権の「協力パートナー関係」を経て、さらに盧武鉉政権になってから「全面的協力パートナー関係」に「戦略的」が加えられ、経済・貿易分野に集中していた中韓関係を外交、国家安全保障などの領域へと広がった。つまり、中韓戦略的協力パートナー関係は両国関係の枠を超え、地域安全保障協力が重視され、安定性をもった。中韓両国は「政治や、外交、安全保障、経済、社会、文化などの領域において、全面的な戦略的パートナー関係を確立した。また、中韓は両国協力関係の範疇を超え、北東アジア安全保障メカニズムの構築における戦略的協力を行い、さらにその協力を地域的・世界的な視野、たとえば国際テロリズム対策、国連改革および世界気候変化などの領域へと広げていく」<sup>7</sup>。

中韓戦略的協力パートナー関係の主な内容は、次の通りである。第一に、政治において友好交流を深め、政治相互信頼を深化させる。そして、北東アジアの平和と安定の促進や、サブリージョンおよび国連改革、気候異変の対応などの重要問題の協力関係を強化する。この点は中韓戦略的協力パートナー関係の基盤となる<sup>8</sup>。第二に、経済・貿易やエネルギー安全保障の面における交流と協力を深め、金融市場の改革・開放を促進し、金融分野の協力を深める。中韓は非伝統安全保障の分野、とりわけ共に直面する自然災害（たとえば地震、津波、台風）への対応における協力

関係を強化する。第三に、中韓FTAの早期交渉開始を目指す。第四に、中韓の民間文化交流を深める。たとえば、青少年交流を行ったり、民間学術フォーラムを開催したりして、人文領域における理解と交流を深化させ、科学技術、司法と教育領域の協力関係を強化する。

中韓戦略的協力パートナー関係の確立は、中韓関係を戦略的に見直し、新たな段階に導く象徴でもある。それは21世紀の中韓関係に影響するだけでなく、朝鮮半島と北東アジア情勢の変化への対応として、外交戦略調整における賢明な選択でもある。朝鮮半島非核化の原則を維持し、北東アジアの平和と安定を守るという戦略的需要は、中韓戦略的協力パートナー関係の基盤である。この関係は、朝鮮半島と北東アジアの平和と安定に貢献するだけでなく、米韓関係、日韓関係、中朝関係および北東アジア地域協力にも積極的な影響を及ぼす。

中韓戦略的協力パートナー関係の確立は、韓国の対米・対日関係を調和し、北朝鮮の「通米封南（米国を利用して韓国を封じる）」の外交政策を牽制する効果もある。これは、李明博政権の実用主義外交理念に基づき、いわゆる中国、米国、日本、ロシアの「バランス」になるという「バランス外交」の現れである。ただし、中韓戦略的協力パートナー関係の確立と発展は、韓国の外交戦略の基軸である米韓同盟関係を弱体化させ、あるいはその代替になることはできない。

日中関係については、日本の安倍晋三首相（当時）が2006年10月に訪中し、小泉時代の靖国神社参拝によって悪化した日中関係が大きく改善された。日中は「戦略的互惠関係」を結び、国際社会において共同利益を追求することで合意した。2008年5月に胡錦濤主席が訪日した際、『「戦略的互惠関係」の包括的推進に関する日中共同声明』が発表され、日中の戦略的互惠関係が新たな段階に入った。これまで、中国側は1972年の「日中共同声明」、1978年の「日中平和友好条約」、1998年の「日中共同宣言」を日中関係の「礎」と称していた。日中の戦略的互惠関係の構築は、日中関係が新たな歴史の出発点に立ったことを意味する。また、経済グローバル化と地域主義が進むなかで、日中戦略的互惠関係は今までなかった戦略性とグローバルな意味を有している<sup>9</sup>。

「戦略的互惠関係」は日中関係発展の政治的な基盤を提

<sup>5</sup> 魏志江「論中韓战略合作伙伴関係の建立及其影響」『当代亚太』2008年第4期、64ページ。

<sup>6</sup> 「中韓発表聯合声明 確定両国戦略対話機制」(URL: [http://news.china.com/zh\\_cn/domestic/945/20080528/14874351\\_1.html](http://news.china.com/zh_cn/domestic/945/20080528/14874351_1.html))、2010年8月10日アクセス。

<sup>7</sup> 魏志江、前掲論文(注5)、63ページ。

<sup>8</sup> 「胡錦濤同韓国総統李明博会談」(URL: <http://news.cctv.com/china/20080528/100077.shtml>)、2010年8月10日アクセス。

<sup>9</sup> 姜躍春「論中日『戦略互惠』関係」『国際問題研究』2008年第3期、7ページ。

供しただけでなく、「相手国を仲間として認知し、脅威とせず、歴史を正視し、未来に向かう」との表明にもなっている。そして、日中は今後「アジア太平洋地域の発展を重視し、グローバルな課題に対応する」など、地域的さらに世界的な視野で協力を切り開いていく<sup>10</sup>。しかし、日中戦略的互恵関係は経済・貿易を重視しており、政治や、安全保障、軍事などの戦略的相互信頼はまだ形成されていない。

日韓関係については、韓国の金大中大統領（当時）が1998年10月に訪日し、「21世紀の新しい韓日パートナーシップ共同宣言」が発表された。また、李明博政権になってから韓国がシャトル外交を通して、盧武鉉時代に冷え込んだ日韓関係を回復させ、日米韓における朝鮮半島の安全保障協力システムを構築した。そして、2010年の哨戒艦沈没事件で、日韓は北朝鮮の脅威に対応する安全保障戦略で協調性を示している。

日中韓三カ国関係については、2008年12月、日本の福岡において第一回日中韓サミットが開催され、「三国間パートナーシップに関する共同声明」が発表された。日中韓パートナーシップは三カ国関係を推進し、また、平和的な手段で北東アジアおよびグローバルな問題を解決し、北東アジアの平和と安定を維持するために、積極的な影響を及ぼしている<sup>11</sup>。2010年5月、韓国の済州島で第三回日中韓サミットが開かれ、「日中韓協力ビジョン2020」が採択された。協力の制度化や、パートナー関係の深化、日中韓のハイレベル交流の強化、国民の友好感情の増進、安定的な戦略的相互信頼の構築などで合意した。その他、2011年に日中韓首脳会談の常設事務局を韓国に設置すること、防衛対話設立の可能性を追求すること、口蹄疫や鳥インフルエンザ根絶へ協力を強化すること、安全保障対話を深めること、地方政府レベルの交流を促進することなどで合意した。したがって、日中韓関係の戦略的位置づけは、経済・貿易領域を超え、政治や、外交、軍事、安全保障、社会・文化などの分野にも及んでいる<sup>12</sup>。

しかし、日中韓三カ国は戦略的協力の基盤を構築しているが、戦略的相互信頼は依然として形成されておらず、安全保障協力の深化させる余地がある。また、日中韓関係および中韓、日中、日韓の二カ国関係の発展にはバランスが十分には取れていない。現状では、中韓の戦略的協力パートナー関係は、日中の戦略的互恵関係よりレベルが高い。

そして、日韓の21世紀の新しい韓日パートナーシップ関係は、戦略的意図に曖昧さが残る。また、日中韓のパートナーシップ関係は、成熟した戦略的協力メカニズムになっていない。

### 3. 日中韓戦略的相互信頼の影響要因

伝統的・非伝統的安全保障を求める行動には不確定性とリスクが生ずることに対して、戦略的相互信頼は一種の認識である。戦略的相互信頼は、行動と意図の「予期」に関わり、その予期は以下の要因に影響される。

第一に、予期は行為主体の歴史特性の認識に基づいている。歴史行為は、行為主体が相手国への信頼を判断する根拠の一つである。行為主体が過激な軍事拡張をしたかどうか、信義に背いたかどうかなどの歴史記録は、この予期に影響している。

第二に、予期は現有政策と行動への理解に基づいている。信頼は伝統社会に特有のものではない。近代社会の発展につれて、信頼の重要性は高まり、近代において不可欠なものとなっている。信頼は近代社会で拡大しつつある複雑さ、不確定性とリスクといった特徴に深く絡んでいる<sup>13</sup>。複雑な現実世界のなかで、一国の社会・文化や、国家制度、外交政策、重大国際事件への反応なども、信頼するかかどうかの重要な判断材料となっている<sup>14</sup>。

第三に、予期は義務履行と約束順守に基づいている。「責任意識」とは、行為主体が約束、規則などを尊重し、遵守する願望と行動のことである。言い換えれば、二つまたは複数の行為主体が一つの問題に対して共同声明、協定あるいは条約のかたちで行動準則が決まった場合、たとえその準則の権威性が低くても履行状況の監視機能が欠如しても、約束順守の自覚を持っているかどうかは、行為主体の国際責任性を判断する根拠となる。

日中韓の戦略的相互信頼の影響要因を分析する際、下記の三つの視点から見る必要があると考えられる。

まず、歴史要素という視点である。日中韓は3,000年以上の経済文化交流の歴史があるため、東アジア伝統歴史文化とアイデンティティの共通認識が生まれやすいといえる。しかし、20世紀の日本軍国主義による中韓への侵略は、三カ国の戦略的相互信頼の「壁」となっている。中国と韓国に対する侵略拡張政策が行われたため、中韓は日本の戦

<sup>10</sup> 「中日関於全面推進戰略互恵關係的聯合聲明」(URL:[http://www.gov.cn/jrzg/2008-05/07/content\\_964157.htm](http://www.gov.cn/jrzg/2008-05/07/content_964157.htm))、2010年8月10日アクセス。

<sup>11</sup> 「日中韓領導人正式簽署『三国伙伴關係聯合聲明』」(URL:[http://www.gov.cn/ldhd/2008-12/13/content\\_1177284.htm](http://www.gov.cn/ldhd/2008-12/13/content_1177284.htm))、2010年8月10日アクセス。

<sup>12</sup> 「2020日中韓合作展望」(URL:<http://www.fmprc.gov.cn/chn/pds/ziliao/zt/dnzt/wjbdhrmzsfwbxczrczrhhy/t705958.htm>)、2010年8月10日アクセス。

<sup>13</sup> Piotr Sztompka 『信頼—一種社会学理論』中華書局、2005年、20ページ。

<sup>14</sup> 李淑雲 「信頼機制：構建東北亞区域安全的保障」『世界經濟与政治』2007年第2期、35ページ。

略的意図、戦略的能力と重要な行為を判断する際、国益に有利な判断を行う傾向は強まっている。そのため、中韓と日本の戦略的相互信頼度が大きく影響されるほか、日本の軍事安全保障政策にも不確定性とリスクが生じている。

しかし、日中韓は長い交流の歴史を共有しており、歴史的な共通文化形態と東アジア価値観が形成されている。これは日中韓の戦略的意図とアイデンティティ認識を構築することに有利にはたらし、共通安全保障利益にもつながる。したがって、非伝統的安全保障分野の日中韓協力を促し、その過程で歴史問題を解決し、共通利益を拡大させ、21世紀の新しい戦略協力関係を確立させることが重要である。

次に、日中韓の外交政策に対する理解という視点である。その要因は主に日中韓の政治制度、価値観、イデオロギー、政治、外交、経済利益、国際行動などを含む国家利益である。中国の政治制度およびイデオロギーは、日韓と明らかに異なり、民主主義、人権といった価値観においても、日中韓の差が大きい。さらに、領域、海洋権益および島の領有権をめぐる、日中韓の国家利益が衝突している。国際行動においても、中国が異なる国家政治制度をとっているため、日韓の軍事安全保障政策の透明度とは差があると、よく指摘されている。

日中は互いの戦略意図と安全保障行動について、消極的な判断を下しやすい。日韓の竹島（韓国名・独島）の領有権について、日本側は韓国側の安全保障防衛措置を強める行動に抗議する一方で、韓国側は日本側の竹島（韓国名・独島）主権主張に対して強く非難している。そのため、日韓は民主主義および人権の価値観を共有しているにもかかわらず、戦略的相互信頼関係への影響に関して、イデオロギーの要因が国家利益の次になっている。この他、中国の海洋発展戦略は、近海防衛戦略型から遠洋戦略防衛型に転換しているが、日中は戦略的な交流が行われず、戦略不信が解消されないため、日中の戦略的相互信頼関係が損なわれるだけでなく、安全危機に陥る恐れもある。

改革・開放開始以来、中国の経済高成長が続いている。日韓にとって、中国は最大の貿易相手国と投資対象国となっている。また、中国は韓国の主な貿易黒字相手国となっている。つまり、日中韓は政治制度と価値観が異なるものの、経済相互依存が深まっている。そして、チェンマイ・

イニシアティブに基づき、日中韓の通貨スワップ模様が拡大している。また、2010年5月、温家宝総理が訪韓した際、中韓FTAの早期交渉開始について言及し、第三回日中韓サミットでは、日中韓FTAの共同研究が決定された。

最後に、国際責任の視点も重要である。北東アジア地域では、アメリカ主導の日米同盟と米韓同盟が日韓の安全保障の中心となっている。二つの同盟関係は、北朝鮮の武力脅威と挑発を抑制すると同時に、中国の軍事力増強を抑えようとしている。そのため、北東アジア安全保障メカニズムの再構築で、日中韓が共通認識に辿り着くことは困難である。鳩山政府は発足後、普天間基地移設問題をきっかけに、アメリカとより「平等的」な日米関係を構築し、東アジア共同体戦略を提唱した。しかし、韓国の哨戒艦事件および中国の東海実弾演習があって、鳩山政権は安全保障における日米同盟の戦略的価値を見直して、アメリカ主導の日米同盟に回帰せざるをえなかった<sup>15</sup>。2010年に出版された「日本青書（2010）」では、「日米同盟は『日本外交の基軸』と再び強調された<sup>16</sup>。アメリカに制約・抑制されたため、北東アジア安全保障協力における日本は、国際規則と国際協定を履行する主体性が欠けている。また、北東アジア安全保障秩序の認識はアメリカに導かれているため、日本は北東アジア安全保障メカニズムを構築する戦略的行動能力が欠けている。

盧武鉉時代の韓国は、「平和繁栄政策」と「北東アジアのバランス戦略」を推し進めたため、米韓同盟は一時的に弱まった<sup>17</sup>。しかし、李明博政権が発足してから、「平和繁栄政策」を改め、北朝鮮に対する強硬政策の遂行と21世紀米韓戦略同盟を構築しようとしている<sup>18</sup>。とりわけ、天安艦事件が発生してから、アメリカ主導の米韓同盟および日米同盟が全面的に強化されている<sup>19</sup>。中国は既存の地域安全秩序に挑戦するつもりはないとはいえ、日米同盟および米韓同盟によって規制されるアジア太平洋安全保障構造に対して、その認識は消極的である。中国の平和的台頭は必ずしも北東アジア安全保障構造に影響し、あるいはそれを変える未知数の力になるとは限らず、北東アジア安全利益を日米と合わせて調整することも考えられる。そのため、北東アジアにおいては、中国、ロシアおよび米日韓安全保障構造による多極的な安全保障構造ができるだろう。

<sup>15</sup> 「共同発表 日米安全保障協議委員会」(URL:[http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/hosho/joint\\_1005.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/hosho/joint_1005.html))、2010年8月10日アクセス。

<sup>16</sup> 日本外務省『外交青書（要旨）』2010年4月、8ページ。

<sup>17</sup> 2005年3月22日に行われた韓国大統領盧武鉉（当時）の演説では、「今後の韓国は朝鮮半島、あるいは北東アジア地域の平和と繁盛のために、北東アジアのバランスの役目を果たす」と発言した。「東北亜格局中的韓国：現代民族国家的重構」(URL:<http://www.nanfangdaily.com.cn/jj/20050519/zh/200505180001.asp>)、2010年8月10日アクセス。

<sup>18</sup> 魏志江「李明博政府对朝政策調整及其影響」『現代国際関係』、2008年第8期。

<sup>19</sup> 魏志江「天安艦事件影響朝鮮半島地縁戦略格局」『中国社会科学報』2010年6月3日。

#### 4. 日中韓戦略的相互信頼度の変化と北東アジア安全保障協力の影響

日中韓の戦略的相互信頼度に影響する要因が異なるため、要因が異なるたびにその戦略的相互信頼度も異なる変化を呈している。日中韓の安全保障協力は、戦略的相互信頼から大きな影響を受けている。以下では、筆者が日中韓の戦略的相互信頼度に影響する要因を相対的な参考値に設定し、度合いのモデルを用いて測定した相互信頼の度合いの結果を示した。

なお、このモデルについて下記の説明を参照されたい。

(1)各影響要因はA、B、C、D、E、F、G、H、I、J、Kと表示される。

- A. 伝統的な交流歴史と東アジアにおけるアイデンティティ認識
- B. 近代日本の対中韓侵略歴史
- C. 政治制度
- D. イデオロギーと価値観
- E. 領土、海洋権益と島の領有権紛争
- F. 経済貿易関係と市場経済
- G. 国家政策の透明度
- H. 国際規則への認識度および遵守状態
- I. 日米同盟
- J. 米韓同盟
- K. 中国の発展

(2)日中韓の戦略的相互信頼の度合いを座標軸に表示した。

(3)「0」を基準とし、戦略相互信頼度をパーセンテージに表示した。

(4)戦略相互信頼度の影響要因のパーセンテージの設定は相対値であるが、統一の基数を参照値にした。

(5)中韓、日中、日韓の戦略的相互信頼度を総合的に分析したうえで、三カ国の戦略的相互信頼度を評価した。

第一に、図1に示したように、中韓戦略的協力パートナー関係の信頼度の度合いは56%で、二国間および三カ国の戦略的相互信頼のなかで比率が一番高い。それは中韓経済貿易の依存度に関わっており、共通の歴史文化伝統と積極的な東アジアのアイデンティティ認識にも関連している。

盧武鉉大統領（当時）が2005年に訪中した際、韓国が中国を市場経済国と認定した。対中貿易額が1,000億ドルを越える国のなかで、初めて中国を市場経済国に承認したのは韓国である<sup>20</sup>。中韓国交樹立以来、中国はすでに韓国の

最大貿易相手国と投資対象国となっている。その他、中韓は3,000年余りの交流歴史のなかで、宗藩体制<sup>21</sup>を中心とした東アジアの基本的な国際秩序が形成され、東アジアのアイデンティティ認識を共有しているため、戦略的相互信頼の基盤が比較的強い。ただし、中韓戦略的相互信頼度は依然として米韓同盟に影響されることも事実である。

第二に、図2に示したように、日中戦略的互惠関係の戦略的相互信頼の度合いは40%で、中韓戦略相互信頼度より明らかに低い。日本は東アジア文化圏の一員として、歴史上中韓とも友好な経済・文化交流関係を持っていたが、中国主導の東アジア宗藩体制から離れていた。また、対唐・新羅連合軍の白村江の戦い（663年）、朝鮮半島に侵攻する文祿・慶長の役（1592～1598年）のように、当時の東アジア国際秩序を挑発していた。そのため、日本と中韓の歴史的交流の相互信頼の度合いは、中韓のそれよりやや低いことも当然である。近代に入って以来、日本は「脱亜入欧」を目指し、アジアで殖民支配と拡張路線を推進した。その影響で、中韓は日本に対する戦略的相互信頼関係を積極的に期待することはできない。そのため、日本と中韓の二カ国関係における戦略的相互信頼の度合いは、負の影響にしか受けていない。その他、日中には尖閣群島（中国名・釣魚島）の領有権紛争と東海ガス田開発の問題が残っている。中国海軍の遠洋戦略の転換に対しても、西太平洋における日米の海洋権益に挑戦しているとする、いわゆる「中国脅威論」が根強く残っている。そのため、日米同盟は中国の「脅威」に対する安全保障基礎として重要視されている。

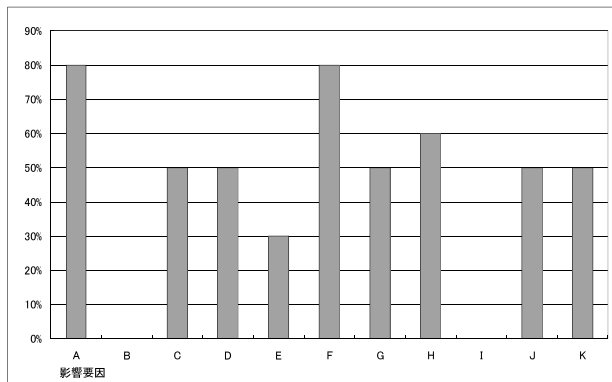
このように、日中の戦略的相互信頼に影響する要因として、伝統的安全利益において、積極的な認識と共通する戦略利益を見出すことが困難である。そのため、戦略的相互信頼は深刻な状態にある。他方、積極的な要因は日中経済関係である。日中の経済構造補完性おと経済相互依存が深まっており、日中韓FTA産官学共同研究の開始および東アジア経済共同体への積極的な期待も加えて、戦略的相互信頼関係に積極的な影響を及ぼしている。しかし、日本は依然として中国を市場経済国に認定しておらず、中韓経済関係に比べてその積極的な要因は明らかに重要度が低い。

第三に、図3に示したように、21世紀の新しい韓日パートナーシップ関係の戦略的相互信頼度の度合いは46%で、日中関係よりやや高い。日韓の戦略的相互信頼に影響する積極的な要因は、主として政治制度と市場経済制度であり、さらに民主主義、人権を中心とした価値観、イデオロギー

<sup>20</sup> 「韓国承認中国市場経済地位 日欧盟有示範作用」(URL: <http://news.sohu.com/20051121/n227553017.shtml>)、2010年8月10日アクセス。

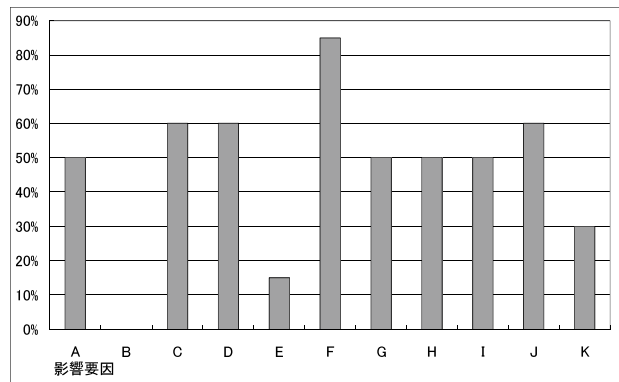
<sup>21</sup> 宗藩体制とは、宗主国側の「冊封」によって作られる中国を中心とした国際関係秩序のことである。

図1 中韓の戦略的協力パートナー関係の戦略的相互信頼の度合い



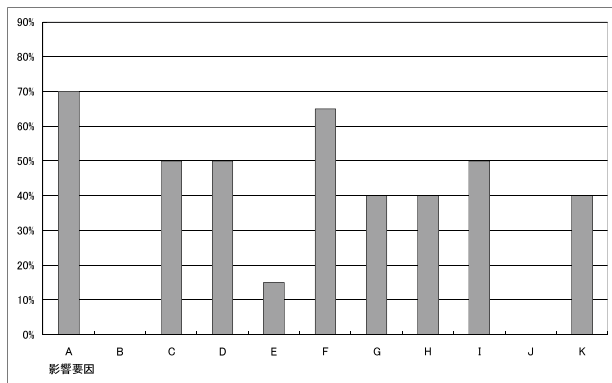
(出所) 筆者作成

図3 21世紀の新しい韓日パートナーシップ関係の戦略的相互信頼度の度合い



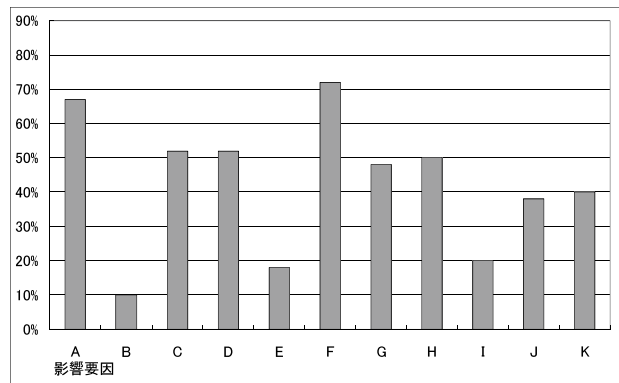
(出所) 筆者作成

図2 日中戦略的互惠関係の戦略的相互信頼の度合い



(出所) 筆者作成

図4 日中韓パートナーシップ関係の戦略的相互信頼



(出所) 筆者作成

を共有しているからである。その他、アメリカ主導の日米同盟と米韓同盟を中心とした米日韓安全保障協力メカニズムも、日韓の共同安全保障利益と協力に有利にはたらく。

しかし、農産品と部品市場といった分野では、競争構造が存在しているため、日韓の戦略的相互信頼度も影響されている。また、日本による植民地支配という歴史、竹島（韓国名・独島）の領土問題紛争は、日韓の戦略的相互信頼関係に影響する最大の消極的要因となっている。そのため、歴史問題をいかに解消するか、21世紀の新しい韓日パートナーシップ関係をいかに構築するかは、日韓の戦略的相互信頼関係の政治要因となる。

第四に、図4に示したように、日中韓パートナーシップ関係の戦略的相互信頼の度合いは42%で、低レベルの戦略的相互信頼関係となっている。その影響要因は歴史問題、領土問題、海洋権益と島嶼有権紛争などである。この他、米韓同盟と日米同盟も日中および中韓の戦略的相互信頼度に

消極的な影響を与えている。

他方、日中韓の戦略的相互信頼に影響する積極的な要因として、親密な経済関係が挙げられる。とりわけ、日中韓FTAの産官学共同研究が開始され、日中韓自由貿易圏を形成することが「日中韓協力ビジョン2020」に入ったことは、今後の戦略的相互信頼関係の経済的な基礎となる。また、北朝鮮の核開発およびミサイル開発といった伝統的安全保障領域に対して、日中韓は積極的に協力することで合意した。そして、金融、エネルギー安全保障、環境問題、公衆衛生、食品安全、反テロリズム、越境犯罪、海賊対策、海上援助、気候変動といった非伝統的安全保障分野にも積極的に協力し、二国間または三国間の協力枠組みを作ることと合意した。いうまでもなく、日中韓の戦略的相互信頼関係を発展させていくことが、北東アジアにおける多国間安全保障メカニズムの構築の核心と基礎である。

[中国語原稿をERINAにて翻訳]

# *Japan-China-ROK Mutual Strategic Trust in Northeast Asia*

WEI, Zhijiang

Professor, School of Asia-Pacific Studies, and  
Director, Korean Study Institute,  
Sun Yat-sen University, China

## **Summary**

In this paper, grounded on the concept of "mutual strategic trust", I have considered the strategic positioning of Japan, China and the ROK, which are located in Northeast Asia. More specifically, in addition to giving a broad overview of the current state of affairs and challenges for mutual strategic trust among Japan, China and the ROK, I have systematically undertaken analysis of the factors affecting Japan, China and the ROK's relationships of mutual strategic trust.

Via the above analysis, I have indicated that the building and continued developing of mutual strategic trust among Japan, China and the ROK is the core and foundation for the construction of multilateral security mechanisms in Northeast Asia. In addition, it is also important that the three nations deepen cooperative relations on security, and with the expectation of a "spillover" effect in nonconventional security cooperation, that Japan, China and the ROK deepen the strategic exchange and mutual trust among them.

**Keywords:** Japan, China and the ROK; mutual strategic trust; Northeast Asian security

[Translated by ERINA]